

介護施設での取り組み

現在、クリエイトエス・ディーでは介護施設(全9施設)において訪問薬剤管理指導に取り組んでいる。薬剤師としてチーム医療の一翼を担うべく、積極的に医師の回診同行や医師・看護師・施設スタッフとのカンファレンスに参加している。



背景

介護施設へ入居する人は、複数の医療機関で処方された薬を持参する（以下「持参薬」と呼ぶ）ケースが多い。重複服用・相互作用の回避のため、薬の一元管理が必要とされる。

病院では薬剤師が入院患者に対し、持参薬を確認するようになってきている。一方、薬局では事故を未然に防ぐために、持参薬管理とどう関わっていくかが重要な課題である。

目的

- 現在の持参薬状況の把握
- 持参薬管理方法の確立
- 持参薬状況および管理方法における問題点の抽出

方法①

介護施設全9施設の担当薬剤師7名に対して
アンケート調査を行った

アンケート項目

- ・ 平成20年5月末時点における入居者の人数と持参薬持込率(持込者数÷入居者数×100)
- ・ 持参薬管理方法とその問題点
- ・ 持参薬内容での問題点と対応方法
- ・ 入居時における持参薬の一次対応は誰が行っているか
- ・ 持参薬をセットするときに参照している情報

持参薬状況

各施設の入居者数と持参薬持込率

施設名	入居者数(人)	持参薬持込者数(人)	持参薬持込率(%)
A	32	32	100.0
B	49	48	98.0
C	46	43	93.5
D	38	36	94.7
E	26	26	100.0
F	38	28	73.7
G	39	39	100.0
H	34	34	100.0
I	46	43	93.5
全9施設	348	329	94.5

持参薬管理における問題点

持参薬状況

- ・ コンプライアンス不良による
余剰薬の所持
- ・ 使用期限や保管状況の不明な
薬の持参
- ・ 多科受診による処方薬の重複

持参薬管理

- ・ 入居日に薬剤師が立ち会えない場
合がある
- ・ 看護師および施設スタッフによる
セットミス
- ・ 持参薬の残数不足による日数不足
- ・ 薬剤情報と持参薬が一致して
いない

持参薬管理方法の確立

施設スタッフへのプレゼンテーション(プレゼン) →

1



- ・ 内服・外用・頓服、服用時点など薬に関する説明
- ・ カセッターでの管理方法 →
- ・ 一包化作業方法
- ・ 印字方法
- ・ 残薬について

2

施設スタッフへ入居時必要書類【診療情報提供書、薬剤情報提供書(薬情)、サマリー】を依頼する



入居時に施設スタッフが持参薬を確認 →



3

初回簡易一包化

施設スタッフがチャック付ポリ袋に入れる

定期訪問時に薬剤師がセット内容の確認および服薬説明 →

4

① 施設スタッフへのプレゼン

一つ一つの作業を薬剤師が施設スタッフへ説明

- ・ お薬の管理は「カセッター」で行います
- ・ 「一包化」は服用時点ごとにお薬を袋等にまとめる作業です
- ・ 「印字」は服用時点・氏名・日付が袋に記入されている必要があります
- ・ 「残薬数」は薬剤師訪問日まで不足しないように確認をお願いします



② カセッター—管理方法



月ごとに1日～31日
まであります



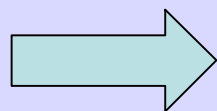
各引出しの中は服用時点
ごとのトレーが入っています



氏名・用法ごとに薬を
一包化します

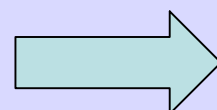
③ 初回簡易一包化

担当者



看護師、施設スタッフ

参照薬剤情報



診療情報提供書、薬情、残薬、
本人・家族からの聴取

4 定期訪問時の薬剤師業務



袋の記載および薬の内容を確認



カセッターの日付、服用時点と
薬剤の整合性を確認



入居者から持参薬の情報を収集
(実際の服用方法、残薬がないか、
コンプライアンス、服用しやすい剤形か)



医師、看護師とカンファレンス
持参薬の情報提供により処方
設計を支援

まとめ

- 入居者の9割以上が持参薬を持ち込んでおり、薬剤師が持参薬管理に関わることが重要である
- 当社による持参薬管理方法の確立より、看護師および施設スタッフが持参薬を一次的に取り扱うことができている
- 持参薬管理における問題点は、後日必ず薬剤師が持参薬の状況と内容を確認することで適切に対処できている